

The Chinese Recorder にみるグッドリッチ（富善）とその家族の記録

宮田和子

要 旨

Chauncey Goodrich (1836~1925) was a protestant missionary wonderfully gifted with linguistic, as well as poetic, abilities. Staying in Peking nearly sixty years, he could speak and write the Pekinese language, which was then prevalent, better than anyone else. But so far very little is known about him. My aim is to collect whatever information obtainable on him and his family. *The Chinese Recorder* has proved to be most useful specifically for that purpose.

キーワード: *The Chinese Recorder*, グッドリッチ（富善）とその家族, 聖書の口語訳

天津外国語学院の温雲水氏は、2007年関西大学が主宰した国際シンポジウムの論文集『16-19世紀西方人的漢語研究』に「初探《富善字典》」と題する論考を発表し、《富善字典》(*A Pocket Dictionary (Chinese-English) and Pekinese Syllabary*)の原本2点をはじめで紹介し、その著者米人プロテスタント宣教師グッドリッチ Chauncey Goodrich (1836-1925)の略歴に触れている。東洋文庫にグッドリッチ著《官話萃珍》(1916)があり、著者の中国名は‘富善’となっていて、温雲水氏の記述と一致する。

温雲水氏によれば、グッドリッチは入華以来60年間北京に滞在し、北京語の大家として名を馳せたにもかかわらず、その事績や周辺の事情はほとんど知られていない、という。

1. グッドリッチ (Chauncey Goodrich) の周辺

グッドリッチは *The Chinese Recorder* にひんばんに登場する。論文を寄稿し、書評を掲載し、さまざまな委員会を結成するなど、活発な運動を展開している。以下 *The Chinese Recorder* (‘CR’ と略称する) の断片的な記録を手がかりにして、グッドリッチの生涯の一斑をさぐってみたいと思う。CR のつぎの数字は巻数、コロン (:) につづく数字はページを表す。例をあげれば、‘CR5:120’ は ‘*The Chinese Recorder* vol.5, p.120’ を表し、‘CR56:120-134’ は ‘*The Chinese Recorder* vol.56, pp.120-134’ を表す。

1.1 グッドリッチの略歴

グッドリッチ Chauncey Goodrich (1836-1925) は、1836年6月4日マサチューセッツ州 Hindsdale に生まれ、敬虔なキリスト教徒の家庭に育った。1861年25歳のとき Williams College を卒業した。卒業演説は宣教師の布教活動に関するものであり、当時の彼の関心はすでに海外に向いていた。Union 神学校で1年、Andover で2年を過ごした後、American Board of Commissioners for Foreign Missions (以下‘ABC FM’ と略称) の派遣宣教師として、妻とともに1865年8月中国に着いた。当初中国語はわからなかったが、任地の北京の教会音楽の普及に積極的にとりくんだ。中国語の習得に精魂を傾け、60年という長期間の北支駐留を通して、官話のもっとも流暢かつ正確な話し手といわれるまでに熟達した (CR56:747,748)。

ABC FM 北支支部の常任宣教師 (regular missionary) は75年間で335名にのぼり、一人あたり平均25年をつとめあげたことになる。古参株グッドリッチは60年、つづく Miss Andrews は57年の長期におよんだ (CR66:638)。

1873年通州に至り、Gorden神学校で教鞭をとり、ABC FMのNorth China Collegeで天文学を教え、天の啓示を説いた。義和団事件の後この神学校は北京に移って連合組織にくみこまれた。1911年神学校を退いて、聖書の官話訳に全精力をそそいだ¹。1890年の宣教師会議で聖書官話訳委員会の委員長に推され、現地助手の協力を得て *Pocket Dictionary of the Mandarin Language* を完成、1万字を超える漢字に説明をほどこした (CR56:747,748)。グッドリッチはシェフィールド (D.Z. Sheffield) (いずれもABC FM College教授) とともに神学博士 (Doctor of Divinity) の称号を授与された (CR22:489)。

グッドリッチはまた39,000例をあげて、漢字4,000字の説明をこころみた。先任者プロジェクト (Dr. Henry Blodget, 白漢理 1825~1903) と協力して賛美歌集を編んだときには、音楽編集を担当した。1922年84歳のとき、さらに44曲を加えたが、うち34曲はグッドリッチ自身の作曲によるもので、当時根強い人気を誇った。少壮期、監察長官ハート (Robert Hart) に、税官吏になるよう勧誘されたことがあったが、グッドリッチは躊躇することなくことわっている。官話訳聖書の完成こそが天職という強い信念がそうさせたのであろう。

グッドリッチと3番目の妻 S.C. Goodrich との間に生まれた子供がふたりいる。ひとは長じて

¹ グッドリッチの中国到着後の行動について、*The Chinese Recorder* の記録と他の文献との間に若干の齟齬がある。下記参照。

グッドリッチ (Chauncey Goodrich) は ABC FM 所属の派遣宣教師として、1865年夏夫人とともに中国に到着し、7月にペキンについた。以後1871年までペキンに滞在し、通州で最初の説教を行なった。1870年ごろ蔚州をひらいて根拠地とした。グッドリッチは、プロジェクト (Henry Blodget, 白漢理 1825~1903) とともに頌主詩歌を翻訳し、1872年に出版した。(A. Wylie 1967-274, D. MacGillivray 1979:105, 268, 269, 276, 284, K.S. Latourette 1975:433)

清華大学の Grace Goodrich Smith²夫人となり、いま一人は Peking Union Medical College の Luther Carrington Goodrich 博士であった (CR56 (追悼記) :747,748)。

1.2. グッドリッチの家族

最初の妻 Abbie Goodrich は同じく ABCFM に所属し、1865 年 8 月夫とともに中国に到着し、通州に住んだが罹病、長い闘病生活を送って、1874 年 9 月 1 日に他界した (CR2:55,57; 5:296)。

1878 年 5 月 30 日グッドリッチは、日本の大阪で同じく ABCFM 所属のウィーラー (J.E. Wheeler) 嬢と再婚して来華したが、2 度目の妻もまもなく罹病し、1878 年 9 月 3 日死去した (CR9:389)。

3 番目の妻は Sarah Boardman Clapp Goodrich、広くその名を知られた ABCFM の要員であった。Rockford 神学校を卒業し、そのまま教員としてとどまったが、1879 年中国赴任の要請をうけて受諾、Kalgan に滞在していた。翌年、通州の神学校で教鞭をとっていたグッドリッチと結婚し、ここがそのまま 4 半世紀にわたるふたりの家庭となった。義和団事件では北京で反乱軍に包囲され、当時の恐怖の体験の記録をのこしている (CR55:44,45)。

1905 年神学校は北京に移った。聖書官話訳委員会が結成されて、グッドリッチが委員長に推され、彼女自身も独自の活躍の場をひろげた。婦人基督教節酒連合 (Women's Christian Temperance Union) の緊急要請を受けて、その中国代表に任命された。また通州に現地女性のための学校を創設して、愛情溢れる教育を実践した。北京の社会奉仕活動 (Christian Social Service) のリーダーとして、漢人、満人を問わず、支配層の夫人との交流を深め、得意の官話を駆使して、老いた女性の生活を支えるためのホーム運営の必要性を説いた (CR55:44,45 (追悼記一筆者は A.H.S. (Arthur H. Smith か?) と名乗る、婦人基督教節酒連合のメンバー))。

1920 年 1 月 2 日から 8 日まで上海で '会議一女性の仕事について' (Conference on Women's Work) が開かれ、アメリカと中国から多数の代表者があつまった。中国からの参加者のなかに S.C. Goodrich の名があり、参加者全員でとった写真が載っている (CR56:642)。中国で 44 年を過ごし、不治の病を得て 1923 年 11 月 15 日に永眠し、通州墓地に葬られた (CR55:44,45; 56:748)。グッドリッチ夫妻は生後まもない男児を亡くし、その後 1904 年 10 月 19 日には娘の Mary Dorothea を 12 歳 3 ヶ月で亡くしている (CR35:591; 55:45)。

S.C. Goodrich が関わった書物に、つぎの 3 点がある。(1)《維麗徳女士烈伝》(The Story of Francis E. Willard) : S.C. Goodrich が編集、Chuan Shao Wu 夫人が訳したもので、F.E. Willard (1839~1898) は婦人基督教節酒連合の初代会長、中国における節酒運動のパイオニアであった。浅文理 (clear wen-li) で書かれ、官話訳の刊行も期待されていた。(2)《節制故事》(Temperance Tales) : S.C.

² Grace Goodrich Smith については異説があり、未詳。

Goodrich と Mr. Chuan Shao Wu の共訳。《維麗徳女士烈伝》は 10 セント、《節制故事》は 20 セントで販売された (CR46:782,783)。(3) 節酒奨励用のテキスト (Temperance Text Book) : 初巻は北方官話で書かれ、12 課からなる問答形式になっている。85 ページで 13 セント。North China Union College Press 発行。教師用は 15 セント、上海の Presbyterian Press, Methodist Publishing House と、北京の Christian Literature Society が発行した。米国で有効と認められた節酒改革にもとづく教育法を、中国に導入しようとしたもので、婦人基督教節酒連合はこのテキストの準備に大きく貢献した (CR42:720-722)。

1.3. Luthur Carrington Goodrich

L.C. Goodrich (1894~1986) は Chauncey Goodrich と 3 番目の妻 S.C. Goodrich との間に生まれた息子である。生誕の地は北京近くの通州であった。China Inland Mission の男子校と Oberlin Academy に通い、正規の教育はアメリカで受けた。マサチューセッツ州 Williams College で B.A. を、コロンビア大学で M.A. および Ph.D. を授与された。1959 年 Williams College から名誉文学博士の学位を贈られた。1918 年米国陸軍で兵役に服し、1919 年 Y.M.C.A. 中国支部の書記 (secretary) となった。同年 'New or Valuable Features or Devices in Work for Chinese Labor Corps' と題する、中国労働団体をとりあげた論文を、CR に寄稿して、Y.M.C.A. の教育方針、授業内容、教員構成、将来の計画を紹介している (CR50:643)。

1920 年から 1925 年までロックフェラー財団 (Rockefeller Foundation) の中国医療局 (China Medical Board) のメンバーとして北京にとどまり (CR56:481, Goodrich, L.C. 1962)、Peking Union Medical College を主導して、河北一帯で活躍した (CR55:45, CR56:748)。

1924 年 4 月 4 日男児が誕生し、Frank Chauncey と命名された (CR55:343)。1925 年 7 月 22 日は父 Chauncey Goodrich の 清国上陸記念 60 周年にあたるので、"The Evolution of a Mission" (あるミッションの進化) と題する、父の未発表の論文を公開して、初期の ABCFM の活動を回顧している (CR56:443-448)。

1927 年から 1961 年にかけては、コロンビア大学で、中国語講師、准教授、Dean Lung (Long?) 教授³を務めあげた。1937 年と 1946 年には北京で、1951 年にはハワイ大学で、1953 年と 1954 年には西ベンガルの Visva Bharati 大学で派遣講師を務め、1961 年にはオーストラリア国立大学の東洋研究部門で、フルブライト客員教授となった (Goodrich, L.C. 1962)。

Thomas D. Goodrich による L.C. Goodrich の著作解題が刊行され、相当量のネット情報がすでに公開されている。L.C. Goodrich の中国史への興味は明代以降に集中しており、中華民国成立でしばらく途絶えたが、その後遺跡発掘の報に接して再燃、86 歳の高齢で最後の中国行きを果

³ 原文は 'Dean Lung Professor Emeritus of Chinese'。未詳。

たした。国際基督教大学には著者直筆の署名入り献呈本が 3 点保管されているが、詳しい報告は次回にゆずりたい。

2. The Chinese Recorder にみるグッドリッチの論考

2.1 Chinese Hymnology (中国語による賛美歌編作) : 中国のほぼ全階層で賛美歌がうたわれているのに、あらためて賛美歌集を出版することもなかろうといわれるかもしれないがと前置きして、中国語のリズムの特殊性を説く (CR8:221-226)。先任者プロジェクトと協力して賛美歌集を編んだときには、音楽編集を担当した。1922 年 84 歳のとき、さらに 44 曲を加えたが、うち 34 曲はグッドリッチ自身が作曲した (CR56:747,748)。

2.2. Work and Needs of Our Society (わが宣教会のしごとと必要性) : 1888 年 5 月 23 日の会合で読んだもので、グッドリッチのトラクト観を説いている。トラクトの影響は従来よりはるかに広範囲におよんでいるのに、表現のしかたがあまりにいかめしく、陰鬱でありすぎる。まどろんでいる良心を、厳粛な真実の光でめざめさせるのが、トラクトの正統的な使命であるから、説得調のものよりも、おもしろくて、大衆の心をつかむようなトラクトが望まれる。われわれには聖書があれば充分だが、異教徒は聖書を理解する手助けが必要だ。それも各宣教組織が個別に行なうのではなく、団結して行動することが必要であり、しかもトラクトを書くことに強烈な内なる衝動を覚える人物が書かなければ意味はない、資金も大幅に不足している、とグッドリッチは訴える (CR19:366-370)。

2.3. How to be a Missionary and Convert No One (改宗者ゼロの宣教師となる法) : 1888 年 12 月 17 日に Peking Missionary Association の集会で読まれたもので、つぎの 9 項目にわけて、改宗者をふやす方法を、能うかぎり逆説的に提示している。グッドリッチは天成の詩人で、詩的感興のおもむくままにリズムカルな、ときにきわめて逆説的な文章をつづる。それに基督教徒としての宗教的情熱が加わって、俗人の介入をゆるさない。以下は無謀と知りつつ試みた、グッドリッチの論考の紹介である。

(1) Do not come too near to men. (中国人に近づきすぎな) : 中国人とは奇妙な人種で、信頼、寛容、報恩の念などかけらもない。よって憐憫の情をかけすぎないように注意せよ。同情はうるわしい。われわれ欧米人ならば、たとえ相手が罪人であったとしても、だ。だがここではそうではない。相手が中国人であることを忘れるな。

(2) Do not expect to master the language. (中国語をものにしようなどと考えるな) : まず漢字だ。つぎに声調だ。声調はアクセントでもなく、リズムでもなく、ミュージックでもない。中国語には古典特有のスタイルがある。ことわざは数しれず、話しことばにしても、知識人の官話と大衆の使う方言がある。その方言たるや、地域ごとに異なり、社会階層によっても異なる。そんな言語の修得は、最初からあきらめたほうがよい。

(3) **Be busy about many things.** (いろんなことをやれ) : 一意専心をモットーにかかげるひともいる。しかし現実にはどれほどたくさんの方がそれを妨げているかを考えてみるがいい。大工、塗装屋、石工、どれもこうしたしごとと無縁の人びとが、指示をださなければならないのだ。その結果あせる。そのあいだにも人びとは生まれ、あるいは死んでいく。われわれが指示したからといって、その内的生活に影響をあたえることはない。

(4) **Be about equally interested in other literature and the Bible.** (聖書にかぎらず、ほかの文献にも眼を向けよ) : 幅ひろく教養を積み、視野をひろげよ。異教の塔が高ければ高いほど、それを打破する力量を、われわれも蓄えねばならない。

(5) **Make the seasons of prayer short.** (祈りの時間をみじかくせよ) : 人を動かすのはことばではない。ことばに躍動をあたえるのは、ことば以外のサムシングだ。

(6) **Make hasty preparation for preaching** (説教の準備に時間をとられるな) : 万事に周到的な準備など、できるものではない。ならば、説教も簡単な準備にとどめて、真理の女神の降臨を待つがよい。

(7) **Make a constant attack on Confucius and Confucianism.** (常に孔子と儒教を攻撃せよ) : 中国に5年滞在した宣教師が、あげくの果てに言うひとことが、‘我われはみな罪人だ。孔子もやはり罪人だ(我門都是罪人。孔夫子也是罪人。)’ というものだったとしたら、ひとりの改宗者も獲得できるわけがない。儒教と孔子を常に攻撃しつづけることは、太陽に攻撃を加えるようなものだ。中国の学者には、それはとほうもない傲慢、不敬としか映らない。敵はふえ、改宗者の獲得など、まず望めない。

(8) **Run a constant parallel between Confucianism or Buddhism and Christianity.** 儒教と仏教、なかでも儒教は珠玉の記録に満ち、道徳性に富み、崇高な理想をかかげている。基督教もそうだ。仏教はこの世がいかに病んで、疲れているかを説いている。ならばこれに比定しうる基督教の概念は贖罪 (redemption) である。中国は犠牲 (sacrifices) に満ちている。これもまた基督教との比定の好材料となる。

(9) **Do not follow up preaching with close personal work.** (説教を徹底的に究明しようと思うな) : 2、3分静かに座って待つがよい。教会はやがて誰もいなくなり、あなたはといえば、説教をもう一度し終わったという満足感を抱いて、自宅の書斎にもどることができるのだ。中国相手に即効を期待するな。基礎を築くだけで満足し、建築はつぎの世代にゆだねることだ。時計の針をかちりとひと針動かすことに集中せよ。情熱を燃やしすぎるな。しかし同時に、骨身を惜しむな、たとえひとりの改宗者もいなかったとしても (CR20:254-262) ⁴。

⁴ But work on as before, laboriously, painfully, never too hopeful or enthusiastic, sometimes wondering if any son of Ham has ever been really converted, half believing, and often saying, that all mission work in China is a failure, and proving to yourself and to others how possible it is to be a missionary and not convert anyone.

2.4. *The Duty of the Hour* (今果たすべき義務) : 今は批判のときであり、同時に進歩のときである。今こそ力をあわせて行動すべきときである (This is the age of criticism. This is also the age of advance. This is the age of united action.)、とたたみかけ、まなじりを決して立ちあがれ、と説いている (CR22:113-116)。

2.5. *How to Learn the Chinese Language*. (中国語をどうまなぶか) : 1892年11月

14日のPeking Missionary Associationの集会で読んだもので、読むことによって上達をはかるのは、基本的にまちがっている。歩くことによって歩くことをまなび、泳ぐことによって、泳ぐことをまなぶように、話すことによって、話すことをまなぶのだ。まず現地人教師を確保せよ。部屋にあるテーブル、椅子、時計、ドアを中国語でなんというか、聞いたらくりかえせ。それに読むことを併行させると、やがて部首がわかり、発音がわかり、漢字の分析によるこびを感じるようになる (CR24:1-6)。

2.6. *In Memoriam* (追悼記) : カルガン (Kalgan) で肺を病み、1898年1月26日に亡く

なったMrs. Mark Williamsの死を悼む (CR29:223,224)。なお、*The Chinese Recorder*の人物索引は、ここでは巻数 (volume number) を誤記しており、29:223,224 と記すべきところが、28:223,224 となっている。

2.7. *One Bible or Three?* (聖書は1種類か、3種類か) : 中国は言語、習慣、服装、通貨その他もろもろの目くらむような多様性に満ちている、とグッドリッチは前置きして、1898年6月10日付で蘇州のHampden C. du Bose⁵ が編集者あてに投稿した、*One Bible or Three?* という疑問に答えたものである。やがては統一するのが望ましいが、浅文理と深文理の2種類を併用しているのが現状だ、と説明している (CR29:484-488)。

2.8. *Lessons to Missionaries from Recent Troubles in China* (中国の最近の騒擾事件から宣教師がまなんだこと) : ‘最近の騒擾事件’とは1900年の義和団の反乱を指す。グッドリッチは家族とともに北京で反乱軍に包囲された。最初の銃声がひびいたとき、グッドリッチはマーティン (William Alexander Parsons Martin, 丁韪良 (1827-1916)) に会った。中国の近代化に尽くしたという自負の念は打ち砕かれ、彼は疲れきっていた。グッドリッチは扇動に踊らされて狂った暴徒に追われ、名状しがたい敵意にさらされつづけた体験をこまかに語り、宣教師の置かれた現状を直視するよう訴える (CR32:19-27)。

2.9. *A Message to the Churches* (教会へのメッセージ) : 1901年2月15日、上海における宣教師会議で読まれたもので、(1) 新世紀における教会の役割 (2) 主の指令に対する教会の対応 (3) なぜわれわれ宣教師は中国を救済せねばならないのか (4) ミッションの偉業を成し遂げるためにとるべき手段 (5) 進むべき道すじ、を詳細に説き明かす (CR32:157-168)。

⁵ *The Dragon, Image and Demon: or the Three Religions of China: Confucianism, Buddhism and Taoism*, 1887の著者。

2.10. Phillips Brooks and Missions (ブルークス (Phillips Brooks, 1835-1893)) とミッション) : ブルークスは 1835 年 12 月 13 日、ボストンの富裕家庭に生まれた。信仰心と学識、敬意に満ちた、理想的な家庭だった。6 人の男児の 2 男として生まれ、ハーバードを卒業して 1859 年に牧師補佐となり、フィラデルフィアの 2 教会につとめて、名をあげる。静かななかにも情熱を秘めた説教は聴衆を魅了し、招待がひきもきらず、米国内の一流大学、英国のオックスフォード大学から名誉学位が贈られた。1891 年マサチューセッツ州主教 (bishop of Massachusetts) に選ばれて、斯界最高の榮譽を手中にした。1893 年に不慮の死をとげ、リンカーン暗殺以来の指導者を失ったと、全米を嘆かせた。ブルークスは分析的というより、詩的心情の持ち主で、'O Little Town of Bethlehem' は彼の作詞。学識豊かではあったが、アカデミカルではなく、科学上の新発見や哲学的な討議には興味をしめさなかった。キリストを受け入れた人びとに開かれる喜びに満ちた生活を具現して、尊敬をあつめた。6 フィート 4 インチ、体重 300 ポンドの巨漢で、生涯独身を通した。彼の説教の対象は主として正統的なボストンの人びとであった。南北戦争後のアメリカについては、ほとんど沈黙を守った。反動的では決してなかったが、彼の改革の概念はきわめて限られていた。彼の死去の年はすでに経済不況の只中であり、かれの人となりも説教も、もはや時代遅れとなっていたとも評される⁶。

ブルークスのような卓越した人物こそ、フィラデルフィアやボストンといった文明の地を離れ、榮譽を捨て、蛮夷の言語がはびこる僻地を活動の場として選んでほしいものだ、とグッドリッチは結んでいる。

2.11. Tracts and Terms (トラクトと宗教用語) : 1904 年 5 月 27 日の年次集会で読まれたもの。トラクトはすでに世界中のことばに訳され、多くの人びとの手に渡っているが、さらなる増刷が必要である。「上帝」「神」「主」にみられるように、術語の選択の重要性を強調する。しかし中国以外の土地で術語論争がこれほど強調されたことはなかった、とグッドリッチはふりかえる (CR35:425,426)。

2.12. Secrets of Power (力の秘密) : テイラー (Hudson Taylor, 戴徳生 1832~1905) の生涯を回想して、中国の救済が彼の情熱の源だった、と半世紀にわたるテイラーの献身的な努力をたたえる (CR36:379-386)。テイラーは英人宣教師で 1854 年に入華して、China Inland Mission を創設した。同ミッションは 1894 年 3 月の時点で、102 個所の活動拠点と 596 名のメンバーを擁するに至った⁷。

2.13. The Place of Joy and Thanksgiving in Missionary Work (宣教師のしごとにおける歓喜と感謝の場) : 多くの犠牲と絶えざる試練を乗り越えて、最初の改宗者をえたよろこびも、やがてまやかしと知れ、かくて月日はむなしく流れる。最初の宣教師会議できく、詩を奏でるような名演

⁶ Answers.com.による。

⁷ M.G. Guinness 1977 vol.1: 466-476。

説との、それはなんという落差であることか。

ならば、宣教師のしごとの喜びと感謝の念は、なにによってよびさまされるのか、とグッドリッチは問いかける (CR39:426-429)。

2.14. In Memoriam of Rev. Calvin W. Mateer, D.D., LL.D. (マティア (Calvin Wilson Mateer, 狄考文 1836~1908) の死に寄せる追悼記) : マティアの現地人教育と聖書改訂に傾注した情熱をたたえる (CR40:35-44)。マティアは 1855 年ペンシルヴァニア州 Jefferson College に入学して、宣教師を志した。1864 年の入華から 1904 年まで、登州を拠点として布教につとめた。教育者として名高く、教会学校で使用する教科書を編纂した。官話訳聖書の改訂に従事する一方で、化学、物理、天文学、音楽、神学、などに関わる特殊用語の収集と創出に尽力した (D.W. Fisher, 1911)。

2.15. A Translation of the Bible for Three Hundred Millions (300 万人のための聖書翻訳) : 1912 年 1 月 5 日ミシガン州で行なわれた宣教師会議の席で披露された演説で、グッドリッチはおおむねつぎのように述べている。

景教の碑文に記された聖書が失われて久しい。モリソンの 20 年後に設立された委員会でも、God の訳語と翻訳のしかたについて意見がわかれた。これら初期の聖書翻訳は、ほとんどが古典語で書かれていて、学者しか読めなかった。しかし、聖書は知識人だけでなく大衆にも読まれるべきものなので、諸種の現地語に訳さなければならない。聖書翻訳委員会が、広東、スワトウ、アモイ、福州、寧波、上海、北京で結成された。方言の音を示す漢字がないために、新しい漢字を創造したところもある。そのための労力と費用は莫大なものだった。

1890 年の第 2 回宣教師会議では古典、深文理と浅文理 (high and low)、官話口語 (Mandarin colloquial) ヴァージョンと、3 種類のヴァージョンがとりあげられたが、後にひとつが落ちて、中国だけでなく朝鮮と日本でも読めるような、簡単な古典形式がとられることになった。官話口語は中国全人口の 4 分の 3 に当たる 300 万人が話すことばで、おどろくべき発見によれば、上海から広東に至る地域はたがいに通じない多数の方言が使われているが、貴州、北京、満州全域では同じ言語を話すという。漢字の発音はときに異なることもあり、声調は大きく異なるが、地域差をのぞけば同じ言語であり、グッドリッチ自身の経験もこの事実を立証している、トグッドリッチは述べている⁸。

地域差を調整するために 5 名からなる委員会を設置し、それぞれ 1 名の書記がついた。1896 年に最初の集会、以後春秋年 2 回の集会を続け、現在までに新約聖書、詩篇、ヨブ記、創世記、出エジプト記の改訂を終えた。改訂に際しては、つぎの 4 項をガイドラインにした。(1) 地域

⁸ グッドリッチは当時としては豊富な旅行経験をもっていたが、多くは北京を中心とした区域に限られていたため、ことばについての観察も十分なデータに基づくものだったとはいいい難い (千葉・熊進・高橋 2005 ; 千葉 2007 を参照)。

差のあるものよりも、一般的、普遍的なことばをつかう。(2) だれでも読める、欽定版 (King James Version) のようなものをめざす。(3) 原文であるギリシャ語にできるだけ近づける。(4) できるだけ直接的な翻訳をすることに留意し、パラフレイズは詩的感興を殺ぐので、極力避ける (CR43:587-591)。

2.16: モリソン来華以降 Union Mandarin Bible に至る苦難の歴史を描いたもの。本稿 2.15 で述べたように、1890 年の第 2 回宣教師会議の大発見 (2.15.参照) の結果、官話委員会 (mandarin committee) が結成された。訳文の文体はやさしく、しかも品格あるもの (high enough to be chaste) を心がけ、原文に忠実に訳すこと、パラフレイズはしないことを申し合わせた。広汎な地域から翻訳者と助手を選ぶことが必須条件で、当初はルカ伝の完成までに 3 ヶ月以上かかった。1896 年の最初の集会以来、義和団事件の 1900 年を除いて 1912 年までの会合は夏期休暇中に開かれた。こうして 1907 年の第 3 回全国宣教師会議 (the third great conference) までに、新約聖書の 2 度めの改訂を終えた。出エジプト記、ついで詩篇の翻訳に着手した。改訂の完了は未知数だったが、書簡のやりとりの結果、3 つの聖書宣教会 (bible societies) が援助を申し出てくれた。訳文に抽象的な表現はほとんどみられなくなり、聖書本来のことばに近くなった。特筆すべきは、ここ数年 (グッドリッチの署名の日付は、1918 年 6 月 4 日となっている) 3 人の中国人学者の協力をえることができたことである。聖書の文体についても傾聴すべき意見が提供され、委員会は多くをまなぶことができた (CR49:552-554)。

2.17. The Recorder – A Friend (The Recorder – わが友) : グッドリッチによる *The Chinese Recorder* 頌。グッドリッチは本稿にみられるように、*The Chinese Recorder* の寄稿の常連であった (CR49:633)。

2.18. What are Some of the Benefits of a Liturgy? (祈祷文の利点) : グッドリッチは祈祷文の利点として 4 つの答えをあげ、祈祷文は簡単でしかも品格があり、生きたことばでつづられることが必要だ、と述べている (CR51:789)。

2.19. The Question of the Ages (古今を問わぬ問題) : 世界を変えるのは、我われの存在それじたいに織りこまれたキリスト教の精神である。懺悔と信仰、罪の自覚 (CR55:317-322)。

2.20. My First Voyage to China (中国への最初の航海) : グッドリッチと 3 番目の妻 Sarah Boardman Clapp Goodrich との間に生まれた息子の Luther Carrington Goodrich が、父グッドリッチの中国上陸 60 周年を記念して、父の未刊の論考に序言を付し (CR56:443-444)、“The Evolution of a Mission” と題して公開したもので、ABCFM の中国における布教活動の初期の状況が書かれている (CR56:443-448)。

3. *The Chinese Recorder* にみるグッドリッチの書評 : 「書評」(おおむね好意的なもので、ときに解説を兼ねる) は書名あるいは論文名と *The Chinese Recorder* の巻数、掲載ページをあげるが、刊年不載のもの、書物か論文か、略称か否かの区別がつきにくいものも、いくつか含まれてい

る。なおプロテスタント宣教師は、中国の伝統的な複婚制には反対の立場であり、グッドリッチも例外ではなかった。正面きっての反対こそしなかったが、一夫多妻の男性を現地教会のメンバーに加えることはなかった。

- 3.1. A Course of Mandarin Lessons : 教育者として名高いマティア (Calvin Wilson Mateer, 狄考文 1836~1908) による口語のテキスト。200 課からなり、初級から上級までを幅広くカバーする (CR23:535-536)。
- 3.2. The Analytical Reader—A Short Method : 著者マーティン (William Alexander Parsons Martin, 丁韜良 1827~1916) は改訂を重ねて、教材としてアレンジした (CR29:251,252)。
- 3.3. Chinese and English Vocabulary : ステント (George Carter Stent, 司登得 1833~1884) 著。マックギリヴェイ (Donald McGillivray, 1862~1931) が改訂し、上海の Presbyterian Mission Press が 1898 年に刊行した (CR30:151,152,194)。マックギリヴェイによる改訂版の初版である。その後も大幅な改訂をかさねた。再版は 1907 年、第 3 版は 1911 年、生前に出版されたものとしては 1925 年の第 7 版が最後であった (Brown, M. H. 1968:211)。
- 3.4. Hymn Tunes : ジョーズランド (Frank P. Joseland) が作曲した讃美歌を、グッドリッチが紹介 (CR32:48)。
- 3.5. Primary Lessons in Mandarin : マティア著。初心者向け学習書 (CR32:474,475)。
- 3.6. A Harmony of the Gospels : ルース (H.W. Luce) 著。Presbyterian Mission Press で販売 (CR33:255,256)。
- 3.7. 使徒実蹟誌 : バートン (Burton) の The Records and Letters of the Apostolic Age にもとづく記録。著者はルース (H.W. Luce)。American Mission Press 発行。使徒パウロの足跡をたどる地図は、使徒行伝に登場する場所をすべて示すように構成されている (CR35:142)。
- 3.8. Siege Days : (義和団による) 北京包囲の日々。マティア夫人 (Mrs. A.H. Mateer) による実体験の記録。アメリカ人宣教師とその家族は、英国公使館のチャペルに避難していた (CR35:425,426)。
- 3.9. 官話詩歌 : ボーラー (Frederick William Baller, 1852~1922) による現地児童のための 50 曲の賛美歌集。Presbyterian Mission Press 発行 (CR37:223)。
- 3.10. 風琴譜初階 *Grade Organ Instructor* : マティア (Madge D. Mateer) による。Presbyterian Mission Press 発行。わかりやすい官話で書かれ、初級から上級までをカバーするテキスト (CR42:51,52)。
- 3.11. 幼稚園と小学校の中国人児童のための歌 : ステル (Elizabeth S. Stelle) による。Presbyterian Mission Press 発行 (CR46:311)。
- 3.12. 江南地方のプロテスタント教会で使用するための総合賛美歌曲集 (a union hymn and tune book for use in protestant churches of the Kiangnan) : Mission Book Company 発行。新旧とりまぜ

て多数の賛美歌、栄唱を含む (CR47:57,58)。

3.13. ワイルダー夫人 (Mrs. F.D. Wilder) に対する謝辞 : 夫人は North China Mission の財務担当 (treasurer) を勤めて功績があった (CR49:671,672)。

3.14. Greek-Chinese-English Dictionary of the New Testament (新約聖書の希・中・英語辞典) : (CR50:46)

3.15. Complete Bible (聖書の完全版) : 1919年聖書宣教会はすでに官話聖書 (mandarin bible) を発行し、3月には文理聖書 (wen-li bible) を刊行すると発表した。戦争の影響で良質の紙の輸出が規制された。1年前に発注した紙が届かず、やむなく新しい聖書は注文より小型にした。今回発行される完全版 (complete bible) は、旧版に改訂を施したもので、最終的な校閲はグッドリッチ、ルイス (Spencer Lewis)、ボールー (F.W. Baller) によって行なわれた (CR50:135)。

参考文献 (*The Chinese Recorder* は上記) :

Fisher, D.W. 1911: *Calvin Wilson Mateer, Forty-Five Years a Missionary in Shangtung, China*. Westminster Press, Philadelphia

Goodrich, Luthur Carrington 1962: *China's Earliest Contacts with Other Parts of Asia—the twenty-third George Ernest Morrison lecture in ethnology, 1961* —. Canberra: The Australian National University.

Wylie, Alexander 1967 *Memorials of Protestant Missionaries to the Chinese*. Shanghai: American Presbyterian Mission Press. (rep. Cheng Wen) .

Brown, Margaret H. 1968: *MacGillivray of Shanghai 傳道 The Life of Donald MacGillivray*. Toronto: The Ryerson Press.

Latourette, Kenneth Scott 1975 *A History of Christian Missions in China*. Taipei: (rep.Cheng- wen) .

Guinness, M. Geraldine 1977 (rep. Chinese Materials Center) : *The Story of the China Inland Mission*. vols. 1,2.

MacGillivray, D. 1979 (ed) *A Century of Protestant Missions in China (1807~1907)* . San Francisco: Chinese Materials Center, Inc.

Rubinstein, Murray A.1996: *The Origins of the Anglo-American Missionary Enterprise in China, 1807-1840*. Md., & London: The Scarecrow Press, Inc.

千葉・熊進・高橋 2005『百年前の四川方言』中国古籍文化研究所

千葉謙悟 2007 「清末における全国共通語および地方共通語の設定—Western Mandarin との関連から」『19世紀中国語の諸相—周縁資料 (欧米・日本・琉球・朝鮮) からのアプローチ』雄松堂出版

温雲水 2007「初探《富善字典》」『16—19世紀西方人的漢語研究』會議論文集
關西大学亜州文化交流研究中心